

NCNL

図書館だより

No. 25
2009. 7

特集：図書館間の連携

Contents

ページ

巻頭言 「思い出の「本」」	1
エッセイ 私が薦めるこの一冊	2
寄贈図書案内	3
特集：図書館間の連携	4
書評 「博士の愛した数式」	5
データベース紹介 「JAIRO」	6

思い出の「本」 ジェームズ・D.ワトソン著、 江上不二夫、中村桂子訳「二重らせん」

学長 渡邊 隆

「若者が一人で戦って
勝ちとって行く姿が
なんともすがすがしい。」

本 棚を整理していたらなつかしい本が出てきた。『二重らせん』というタイトルの本である。学部の時、むさぼるように、いっしょに読み上げたのを覚えている。あのころ、この二重らせんの構造をもつDNAが、20世紀から21世紀にこんなにも大きな人類の文化の展開をするものと思ってもいなかった。この数年間でも「DNA」が話題になり、世間を湧かしている生命科学の基本をつくっていることを、毎日のように自覚されるような日々である。

当時、学部生だった私は、大学でX線回析分析を主な手法とする鉱物の結晶構造の解析を行っていた。X線回析現象から得られるフィルム上の斑点を追い、コンピューターによるフーリエ解析により結晶構造を決定していた。

あの当時の技術では、DNAのような多分子の結晶構造の解析を行うのは不可能に近いと皆が思っていた。ところが、ワトソンとクリックによってDNAの構造が、二重らせん構造をもつ物質として解明されたという。信じ難いことである。しかも英国の有名なCavendish研究所での仕事であるとのこと。当時、私のような若者は、興味にひかれ、その本を手にしたのである。

その初版は、1967年に発行されたもので、たしか講談社から出されたものだったと記憶している。今、手元にあるのは、1980年に新装改訂版として出されたものである。あの初版は、ボロボロにな

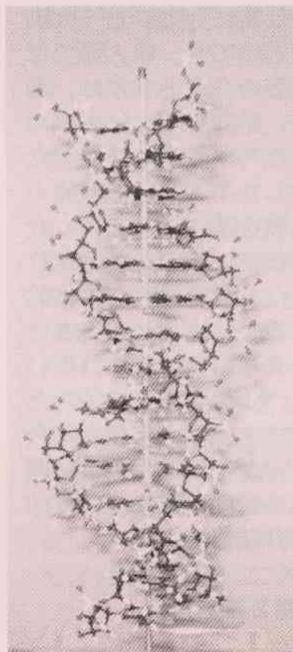
り、九州大学から私が上越教育大学へ移るときどこかになくしてしまったのだ。そして、上越教育大学に移ったとき、1982年再版のこの本を思い出にと購入したのだった。あれからほとんどこの本は開いていない。

当時をさかのぼってみると訳者である東京大学の江上不二夫先生のことは存知あげており、大学で講演会をお願いしたことを思い出す。私のいた東京教育大学と東京大学は、すぐ近いところにあり、先生にはタクシー代ぐらい、たしか

2,000円ぐらいの講演料でお願いしたのではないかと思う。当時、科学技術研究会という理学部の組織で、その会長をつとめていたので、私が先生にお願いした。直接お伺いしたわけでもなく、電話一本で、何月何日の何時においでいただきたいと。それだけで何の苦言もいわず学生の前で「これからの科学技術」というテーマで1時間ほどご講演いただいた。

また、中村先生は、今では、三菱生命科学研究所長をつとめられ、今や生命科学の第一人者である。あの当時は、江上先生の研究室の大学院生か研究生だった

(2 ページに続く)



(1 ページから続く)

のではないかと記憶している。

このお二人の訳者によるこの本は、若者の心をとらえた。とくにワトソンという一人の若者がアメリカからイギリスに乗りこんでCavendishの研究者を相手にDNA構造への挑戦をくりかえしていくありさまを描いているこの本は、一種の探偵小説の様をなしている。

あのノーベル学者のライナス・ポーリングの性格やローエンス・ブラッグ卿の人柄の描写やポーリングの息子のことなど話題には、こと欠かない。とても楽しい本であるが、若者が一人で戦って勝ちとっていく姿がなんともすがすがしい。私は、当時、研究者は、こうあるべきなんだと強く影響された。

この本でのなんといっても忘れられないのは、DNAの構造を解いたのは、X線構造解析という直接法で行ったのではなく、DNAに関する生物学の情報がDNA二重らせん構造でなければならぬと結論に到ったのはワトソンの推論によるものであったということである。このことは、後にDNAを解析している種々の本で、詳細に解説されている。もう一つは、中村先生のあとがきが魅力的である。訳本が出たあとワトソン博士が、来日したときお会いし、ワトソン博士からうかがったという話が印象的である。

ワトソン博士は、キャベンディッシュ時代、研究対象は、DNA以外は、興味をもてなかったと語っている。「DNA解析を競争していたロザリ

ント博士や、ポーリング博士とはちがっていたようだ。自分がクリックと一緒にDNAの構造を明らかにしても、ロザリンドは、少しも落胆せず、その後すぐにタバコモザイクウィルスの研究にうつり、すぐれた仕事をしている。また、ポーリング博士にしても、もともと、何でも興味をもつ多才な巨人で、DNAも数ある興味の一つにすぎなかった。なにがなんでもDNAと思い込み、何を考えていてもすぐにDNAの方に頭がいつてしまった自分を思い出す」と語っている。

その思いが、DNA研究の最初の勝利者になった理由でなかったのだろうか。

この本の思い出はつきない。若い時代に焼きついた本の印象、頁の中の文字が、写真が忘れられない。そしてそこから自分がもらったものの大きさに驚く。本というものはそういうものなのだろう。文化を表現する最も基本的な財産なのだ。

○図書館では講談社文庫版(1986年刊・上図)所蔵
※原著『The Double Helix』も所蔵しています。
請求記号：464.27-W48(棚5左側)



連載企画1 エッセイ “私が薦めるこの一冊”

佐藤紀子著 「看護師の臨床の『知』 看護職生涯発達学の視点から」

医学書院 2007年



今回私がお薦めする一冊は、図書館の新刊棚で見つけた『看護師の臨床の『知』』です。

この本を手にしたきっかけは、副題にある“看護職生涯発達学”という見慣れない文字に心惹かれたからです。看護職生涯発達学とは、「75歳まで看護師として仕事をしよう」という言葉をモットーとする著者が、看護師が妊娠・出産・子育て、そして親の介護を

しながら、それでも仕事を継続していくために新しく構築し、発展させようとしている研究領域だそうです。看護師の離職率の高さは、何度となく聞いた

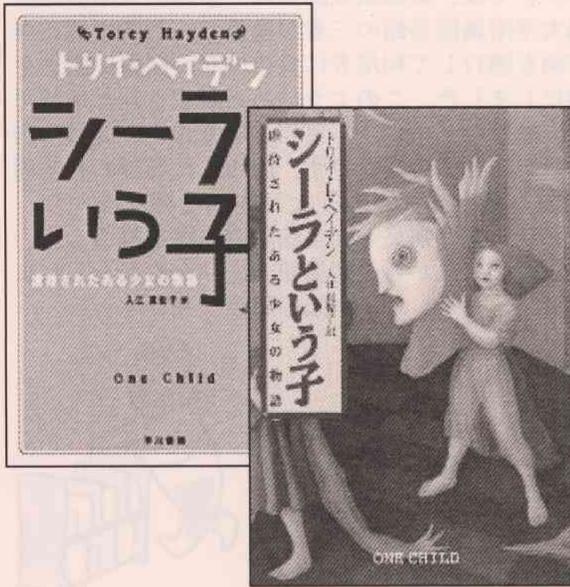
ことがあり、看護師を一生の仕事にしたいと一大決心して社会人入学をした私にとっても、他人事ではありません。3章から成る本書の2章と3章は、著者の研究内容がメインですが、是非皆さんにお薦めしたいのは、熟練した看護師たちが臨床で経験した印象深い事例をいくつか紹介した第1章。看護師が長年積み重ねてきた知識・経験を基に、どのような判断やタイミングで援助を行っているのかが分かりやすく描かれており、3年になり看護過程を本格的に勉強した後に読み返してみると、さらに考えさせられます。特にドラマティックな内容が書かれているわけではありませんが、1つ1つの事例を読むたびに静かで深い感動が広がってきます。字数の都合で内容までご紹介できませんが、清拭と吸引に関する事例にはハッとさせられる瞬間があり、特に印象的でした。(学部3年 伊井晴美)

○請求記号：N238-Sa85(棚2右側)

トリイ・ヘイデン著、入江真佐子訳

「シーラという子 虐待されたある少女の物語」

早川書房 1996、Hayakawa bunko トリイ・ヘイデン文庫 2004



私がこの本に出会ったのは今年の一月です。普段本をあまり読まない私ですが、この本が新刊図書コーナーにあるのを偶然見かけ、半ば衝動的に借りました。

この本の主人公は著者であるトリイ・ヘイデンと、6歳にして傷害事件を起こし、トリイの特殊教室に送られてきたシーラという少女です。決してしゃべろうとはせず泣きもしないシーラは、ときに怒り狂い金切り声をあげ大暴れしてしまい、トリイの手を焼いていました。彼女は、暴力や貧困、親からの虐待によって心を堅く閉ざしていたのです。

しかし、実はずばぬけた知能の持ち主で、心の底では誰かに愛されたいという、6歳の少女として当たり前前の願いを持っていました。そんな彼女に対しても、母親のように暖かく包み込むトリイにシーラは徐々に心を開き始めます。ゆっくりではあるけれど、着実に深い信頼の絆で結ばれていく姿がこの本には描かれています。

この物語はノンフィクションで、その人の感情、悩み、願いが強く伝わってきます。ぜひ読んでみてください。一読の価値はあります！笑

(学部2年 古川優香)

○請求記号：492.937-H49 (棚8左側)

寄贈図書案内

 【ニュース】前号において、渡辺講師の「私の人生を変えた本」の中で『サイゴン日本語学校始末記』（『ハノイの純情、サイゴンの夢』再収録）をご紹介したところ、それをご覧になった著者の神田憲行様が、本書を寄贈してくださいました。現在入手が困難な作品でしたので、大変感謝しております。ありがとうございました。

下記のみなさまより著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。(2008/12/1~2009/5/31受入分)

	寄贈者	書名	出版年	請求記号
学 外 者	岩崎保道	私立大学倒産時代における再建手法と破産処理についての研究	2005	377.1-I96
	矢島和江	被災者を救え！ 災害看護師奮闘記	2009	N049-F67
	亀山孝一	木花方言辞典 改訂版	2000	818-Ka36
	神田憲行	ハノイの純情、サイゴンの夢 講談社文庫	1998	292.3-Ka51
	若井彌一	教員の養成・免許・採用・研修	2008	374.3-W18

新規寄贈受入雑誌・紀要タイトル

2008/12~2009/5受入分<五十音順>

- 看護研究誌 (自治医科大学)
- 関西看護医療大学紀要
- 近大姫路大学看護学部紀要

特集：図書館間の連携

地域に根ざした大学あるいは図書館づくりをモットーに、一般市民への開放を進める大学図書館が近年大幅に増えてきています。また、図書館間で相互協力協定を結ぶことによって、大学図書館間のみならず公共図書館との間でも圖書の相互貸借が可能になってきています。もちろん現在でも本学図書館で所定の手続きをすれば、他大学図書館あるいは県内公共図書館の圖書を借りることはできますが、手続きの煩雑さ、借用条件の制約、あるいは時間がかかることや経費の負担など、いろいろな課題があります。これ等を少しでも改善しようと、多くの図書館で様々な試みが行われています。例えば

平成21年度開始した「新潟地域相互貸借ネットワーク」では、新潟県立図書館、新潟市立図書館、新潟大学附属図書館の三者が連携し、市内を巡る専用車両を運行して利用者に負担のない圖書の搬送を可能にしました。このようにある限定された地域でなら、濃厚なサービスが可能となります。問題は物流システムとその経費です。限られた資源の有効利用を図るため、このような可能性を探りながら、ネットワークの構築と図書館間の連携を推進していくことが、これからの図書館づくりなのかもしれません。
(図書館長 関谷伸一)



図書館相互協力

本学には約49,000冊の蔵書があり、100種類を超える雑誌を定期購読しています。しかしこれらで皆さんの要求にすべて応えられるわけではありません。これは当館に限ったことではなく、どの大学図書館も自館の資料だけですべてのサービスが完結できるわけではありません。そのため図書館では、大学図書館・公共図書館・国立国会図書館など、それぞれが独自性を生かして協力して、利用者にサービスを提供することが一般的に行われています。今回はそうした“図書館相互協力”についてご紹介します。

1 ILL(Inter library loan)

利用者の求めに応じて図書館間で資料の貸借をすることです。予算や書架スペース、利用頻度などの事情で自館で所蔵していない資料について、所蔵している図書館から必要箇所の複写を取寄せたり、現物を借りたりすることができます。申込者は複写代や送料などの実費を負担します。国内に所蔵が無い場合は、イギリスの国立図書館（大英図書館）から複写を取寄せすることができます。

2 訪問利用

実際に資料を手にとって閲覧したいときは、直接所蔵館へ訪問利用することもできます。大学図書館はほぼ9割がなんらかの形で、在籍学生以外にも利用ができるようになっていました。利用条件は図書館によって異なりますので事前に問合せをする必要があります。一般的には、学生証もしくは当館が発行する「資料利用依頼状」を持参すれば利用できます。

訪問利用すると、その図書館が契約しているオンラインデータベースも利用できます。

上越教育大学附属図書館とは平成14年9月に相互協力協定を結んでいるため、学生証を持参すれば訪問当日から資料を5冊2週間借りることができます。ちなみに上教大では朝日新聞の記事や判例のデータベースを利用できます。

今年度中に、協力内容をさらに充実させる予定です。

3 総合目録

訪問利用するためには、「どの図書館に自分の探している資料が所蔵されているか」が分かっている必要はありません。多くの図書館がホームページ上で蔵書検索（OPAC検索）ができるようになっていますが、1館ずつ検索しなくても済むように、大学図書館、公共図書館それぞれ館種ごとに図書館をまとめて蔵書検索できる総合目録が存在します。これらも図書館が協力して作成している事業のひとつです。

大学図書館：NACSIS-WebCat <http://webcat.nii.ac.jp/webcat.html>

公共図書館：総合目録ネットワーク <http://unicanet.ndl.go.jp/psrch/redirect.jsp?type=psrch>

4 重複雑誌交換

当館が加盟している日本看護図書館協会では、毎年不用になった重複雑誌を必要な加盟館同士で交換しています。この事業のおかげで、送料を負担するだけで、欠号を補充したり、歴史の浅い本学でも1950年代まで遡って看護系雑誌を所蔵することができました。

このように、今は図書館サービスにおいて図書館相互協力は欠かせません。いくつもの図書館間のネットワークが存在しており、常に協力と情報交換が行われています。

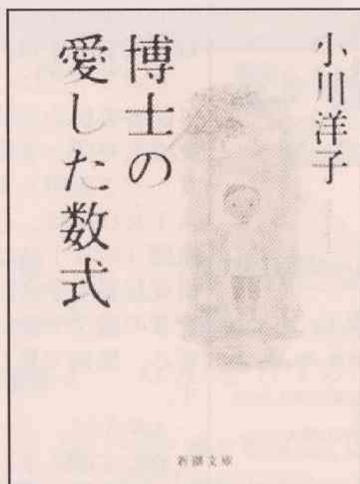
連載企画2 書評

博士の愛した数式

小川洋子著・新潮文庫・2005年

講師 岡村典子

「相互の気づきが、相手への思いやり・いたわりとなり、相互信頼へと発展していく」



おがわ・ようこ

1962年 岡山県生まれ
1991年に『妊娠カレンダー』で芥川賞、2004年に本作で読売文学賞（小説賞）受賞

私が、この本を手にとったのは、ある紹介文がきっかけでした。某看護大学の某教授が、「ケアの本質を哲学的、文学的に味わえる本」として紹介していたのです。一瞬、私は読もうかどうか躊躇しました。それは、題名の末尾にある「数式」という言葉に、嫌な鳥肌が立ったからです。小学校の頃は、算数が大の苦手。5段階評価の「1」か「2」をとっていた私が、一度だけ「5」をとったのは、どうしても欲しかった玩具？（だったと思う…）を買ってもらったためでした。私よりは、親や先生といった周囲の人たちが、異様な驚きを表したのを忘れられません。中学では、数学の授業中、机の下に忍び込ませたマンガにのめり込んだその時、先生に神業のようにマンガを取り上げられ（足音も立てずに近づいてきたあの先生は、どこかで忍びの練習をしているに違いないと思うくらいで）、そのマンガをしばらく返してもらえないという意地悪な（当然か）対応は、私の数学嫌いにさらなる拍車をかけ… いけない、いけない、私の数式にまつわる昔話が長くなってしまいました。話を元に戻すと、数式に対していいイメージを持ってい

ない私が、結局はこの本を読むことにしたのは、本を紹介している某教授のことが好きであること、そして紹介文に“ケアの本質”と謳ってあることに心が惹かれたからです。

“ケアの本質”といえは、ミルトン・メイヤロフの著書が頭に浮かびます（『ケアの本質 生きることの意味』図書館所蔵・請求記号：114-Ma98（棚11（2階）））。この著書のなかでメイヤロフは、「相手が成長し、自己実現することをたすけることとしてのケアは、ひとつの過程であり、展開を内にはらみつつ人に関与するあり方であり、それはちょうど、相互信頼と、深まり質的に変わっていく関係とをとおして、時とともに友情が成熟していくのと同様に成長するものなのである。」〔原文ママ〕といています。このメイヤロフがいつているケアの現象を具象として表現したものが、『博士の愛した数式』にはあふれています。“家政婦の私”は、“記憶力に障害をもっている博士”のことを実によく観察しています。観察しているからこそ、気づき、その内容の意味を理解し、行動（ここではケアといってもいいかも）へと発展させることができたのだと思います。そして、“記憶力に障害をもっている博士”も同様に観察しています。相互の気づきが、相手への思いやり・いたわりとなり、相互信頼へと発展していくのだと思います。“家政婦の私”は、博士の袖口にメモを見つけます。そのメモには、《新しい家政婦さん》と書いてあり、後ろには“私”の似顔絵があることに気づきます。このことから、“私”は自分が帰った後、記憶が消えないうちに急いでその絵を描いている“博士”を想像します。そして、「彼が私のために、（数式を）考えるための貴重な時間を中断してくれた証拠だ」と理解するのです。この気づき・理解は、メイヤロフのいつている“自身が他者の成長のために必要とされていることを実感する”、あるいは“自己の生の意味を、対象をケアすることにより発見する”というケアの現象とつながってきます。

“家政婦の私”が感じる、喜び、そして悲しみは、臨床現場から離れている私に忘れかけているものを呼び起こしてくれました。ぜひ、皆さんもこの本をとおして“ケアとはなんぞや”を考えて欲しいなと思います。

○請求記号：913.6-024（文庫・新書コーナー）

データベース紹介「JAIRO」

文献複写申込前のお役立ちサイト！



<http://jairo.nii.ac.jp/>
 もしくは図書館のホームページからリンクしています

求める論文が無料で、しかもその場で読めるとしたら・・・今回は、そんなお役立ちサイトをご紹介します。

国立情報学研究所が平成21年4月より正式公開した学術機関リポジトリータルサイト「JAIRO」(ジャイロ)です。

リポジトリについては前号の「図書委員会主催研修会報告 研究成果発信と学術情報リポジトリ」でご説明しましたが、このJAIROでは、そうした各大学の機関リポジトリで蓄積されている研究紀要や学会誌で発表された研究者の論文や教材を、まとめて検索し、無料で見ることが出来ます。

4年生は、これから看護研究のために文献入手が多くなってきます。文献複写の取り寄せを申込む前に、ぜひJAIROを検索して、本文を無料で入手できないか確認してみてください。

人事往来

お世話になりました～退職者からのメッセージ～

前・非常勤職員 金子美奈さん

図書館で勤務させていただきました5年間は、ご指導を賜りました職員の皆様のおかげをもちまして大変充実した日々を過ごさせていただきました。また、看護の道を志す学生の方の勤勉さには日々感心するばかりでした。末筆ながら長い間お世話になりました看護大学様の今後ますますのご発展と、皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

前・開館延長嘱託員 能登宏男さん

いつしか「看護」や「介護」に携わる方に対して尊敬や感謝の気持ちを持つ年齢になっていました。5年前にこの仕事に就いたとき、皆さんの大勢の先輩達が熱心に図書館に通う姿を見て、正直驚き、何かお手伝いが出来ないかと思いながら5年間を無為に過ごしてしまいました。今は、皆さんがそれぞれ掲げた目標を成就されることを祈っています。最後に、長い間お世話戴いた看護大学の皆様ありがとうございました。

よろしくお祈りします～新採用職員のご挨拶～

非常勤職員 小堺智美

4月からお世話になっています。図書館業務は初めてでまだまだ戸惑うことばかりですが、1日も早く仕事を覚え、皆様が気持ちよく利用できるよう頑張りたいと思います。よろしくお祈り致します。

開館延長嘱託員 篠宮昭夫

4月から新しく図書館の夜間及び土曜日の嘱託員としてお世話になっています。不慣れなため、皆様にご迷惑をかけることもあると思いますが、一生懸命努めますのでよろしくお祈り致します。

図書館だより 第25号(2009年 7月23日発行)
 編集:新潟県立看護大学 図書委員会 発行:新潟県立看護大学 図書館
 〒943-0147 上越市新南町240番地 TEL:025-526-1169
 E-mail: tosyo@niigata-cn.ac.jp URL: http://lib.niigata-cn.ac.jp/